

みんなで語る会報告書

対象団体	山川水産加工業協同組合青年部協和会
テーマ	「指宿と山川鯉節の未来」
開催日時	平成24年7月10日(火) (16時00分～17時20分)
開催場所	山川文化ホール
参加者数	青年部協和会…12人 指宿市役所…8人 市長, 上村副市長, 産業振興部長, 山川支所長, 総務部参与 商工水産課長, 秘書係長, 市長公室 山川水産加工業協同組合…2人

計22名

会次第

全体進行…山川水産加工業協同組合青年部協和会

- 1 開会
- 2 協和会会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 意見交換会 テーマ「指宿と山川鯉節の未来」
- 5 その他
- 6 閉会

内容等

1 開会

2 協和会会長あいさつ

行政の方に我々の率直な意見を伝え、今後の山川繁栄のために、有意義な会になればいいと思う。難題も多く、すぐには解決できないことも多いが、協和会が生き残るためにも、現状を知っていただきたいと考えている。

3 市長あいさつ

青年部の方々と意見交換会したいと思っていた。皆さんが「がんばろう」と思うきっかけになれば幸いだ。本音で語って頂きたい。

4 意見交換会

テーマ「指宿と山川鯉節の未来」

(1) 観光事業とのドッキング (中テーマ)

①市内ホテル, 施設・学校, 飲食店での山川産鯉節の利用促進 (小テーマ※以下同様)

(青年部)

鹿児島県の鯉節の消費量は全国で7位。生産量が多いが消費量が少ない。鹿児島県, 指宿市内での消費量を増やす施策を教えてください。

(市長)

地産地消だけでなく, 地産全消, つまり全国での消費を考えている。地元産品を全国に発信して売っていかねばならない。ホテル施設を始め, カツオを使った料理の開発が進んでいないことや, 身近な食材すぎて, そのありがたみがわかっていないと思う。指宿の人が鯉節のよさに気付いていない。市民, 特に若い人に鯉節をPRする方法や学校給食への活用を通じて地元消費を進めていく方法が必要だ。その方法を皆さんと話し合いたい。

(青年部)

5～6年前に教育委員会の職員から, 鯉節についての授業をして欲しいと依頼され, 南指宿中学校, 山川中学校で授業をしたことがある。それ以降不定期で授業を行うことはあるが, 定期ではしていない。全学校, 全クラスとは言わないが, 授業をする機会を毎年作って欲しい。私たちから率

先して講師に行く。生徒たちの反応もすごくいい。

(市長)

これはぜひやりましょう。

(青年部)

授業をしていることが全国に向けての山川鯉節のPRになる。

(青年部)

給食で茶節を出すことはできないか。

(市長)

これはできると思う。他の市でも同じような取り組みはある。鯉節の日を定めて学校給食として出すなど、関係機関に呼びかけてみたい。徳光小学校ではスイカ給食、魚見小学校はバナナ給食をしている。まずは山川地区でしてその後指宿市内に広げていくなどの方法がある。

(青年部)

観光地である指宿と鯉節の生産地である指宿を何か繋げられるような取り組みをしたい。ホテル、旅館などと協力して何かできないかと思う。ホテルなどにはもっと積極的に鯉節を使っていたきたい。

②山川駅・指宿駅下車（JR・バス）で3歳以上に1枚山川産鯉節パックを配布

(産業振興部長)

市役所職員が配布に行くことは難しいが、指宿駅、西大山駅には観光案内所があるので、そのスタッフが配布するなどの方法がある。

(市長)

これも鯉節の日を作って、その日に配布するなどを考えてみては。

(青年部)

実は24日が「フシの日」で鯉節の日だ。

(市長)

指宿駅で24日に「今日は鯉節の日です」と、指宿のたまたま箱の乗客に鯉節パックを配ってはどうか。

(加工組合)

組合でも鯉節を配布したいと思い、観光課に相談に行ったことがあった。カツオパックを用意することはできる。あとはどれくらいの量を配布するかだ。

③市職員が県外出張の際に、手土産で必ず鯉節を持っていくこと。指宿特産品のセットでも可

(市長)

今はお茶やオクラ漬けを持っていくことが多いがこれはぜひやりたい。ギフトパックのようなものがあればいい。軽いのでいいかと思う。

(秘書係長)

今年のスポーツ大会の景品に鯉節を用意した。日持ちするし、軽量なので使い勝手がいい。

(市長)

私があいさつに行く時はぜひ使いたい。

(総務部参与)

各郷土会の景品でも利用できる。

④職員教育で山川産鯉節の素晴らしさや鯉節本来の特徴を勉強理解させる人材育成

(青年部)

手土産で持って行った時に、鯉節のことをPRして欲しい。市職員の方に率先して勉強していただいて、市民に広めて欲しい。

(市長)

今の若い人は鯉節の利用の仕方をあまり知らない。利用する経験もあまりない。鯉節料理のコンテストやHPを利用した料理の紹介など、イベント・仕掛けが必要ではないか。24日を利用して駅前広場などでコンテストを考えてはおもしろいのでは。

24日の日を大切にして毎月24日に指宿駅、山川駅でイベントをするなどの仕掛けをして欲しい。

青年部で、アイデアを出し合って取り組んで欲しい。そして自分たちだけでなく、食生活改善グループなど、ほかの組織と協力して欲しい。

⑤日本国内の食品関係者を招待し、指宿の食材をPRする食の商談会を企画する

⑥アジア圏観光客が増える中、国外の食品ブローカーを招き入れ、指宿の良さ、鯉節の利用、調理例（出汁の取り方、簡単さや特徴）等の積極的な売り込みをする

※上村副市長より、資料説明

（山川支所長）

副市長は九州経済産業局から来ている。青年部で事業立ち上げの相談などあれば、副市長に相談していただきたい。

（上村副市長）

水産庁から6次産業の取り組みについて、山川漁業組合、加工組合へ呼びかけがあったと聞いている。ぜひ積極的に参入してもらいたい。

（2）地元鯉節従事者の安定的確保について

①地元女性に受け入れられてもらえるための、雇用確保拡大に向けた積極的な行政の協力。そのための鯉節事業のイメージ戦略

（青年部）

中国人の女性労働者に依存しているが、地元の女性も受け入れたい。そのために行政から何かサポートができないのか。

（市長）

職場としての魅力のひとつは収入の安定と労働環境。まずは会社の収益性を高めることが大切。経営の質を高めていけば、収益力、労働環境の質も上がり、雇用も安定する。

雇用を安定させるためには、中国人の研修生を活用するのも一つの方法だ。そして研修生の労働環境も配慮することも必要になる。一度働いた人が中国に帰ったときに、「指宿の職場は良かったよ。指宿はいいところだったよ」というのを宣伝してもらえるようにしないといけない。

②鯉節工場で働く母親への手厚い補助事業

（青年部）

地元雇用を確保したいという思いから、市から環境を整えるためのバックアップをいただけないか。

（市長）

すぐには解答できない問題。貴重な提言として受け入れさせていただきたい。

（青年部）

平成18年の労働者の状況だが、全部で約500人の従業員がおり、200人が山川、100人が指宿、30人が開聞、50人が市外から来ている。また中国人が120人いる。男女の割合では7割が女性。

（総務部参与）

※現状での母親への補助事業についての説明

（市長）

「働ける人がきちんと働ける」という環境作りは行政が積極的に取り組んでいかないといけない。何が原因で働けないのかそれを踏まえて施策を考えていかないといけない。環境作りは行政の責任。保育園がないから働けないのか、その原因を調べてみる必要がある。

（森支所長）

以上で時間となったので、終了とさせていただきたいのだが、取り残した問題については…。

（青年部）

取り残した問題についてはまたこのような場を作ってくださいそこで協議させていただきたい。

（市長）

指宿の発展のためには山川の発展が必要。そのためには漁業、港の活性化が不可欠となっている。このままではだめ。若い人がなにか新しいことを考え、事業として進めていかないといけない。山川だけではできない。県外の港町の意見も取り入れて進めていかないといけない。

今までは行政と加工組合，漁業などとのつながりが薄かった。つながりを大切にして団結していきたい。加工組合もひとつのチームとしてまとまって，機能していただきたい。

自分の会社だけのことを考える時代は終わった。チームとして動かないと変えることは難しい。個々の会社を青年部でまとめて，力を寄せ合って，青年部を盛り上げてほしい。

そのときに行政がどのような支援ができるかは，皆さんと一緒に考えていきたい。若手の柔軟なアイデア，企画を生かして，業種の枠を越えたアイデア・企画を実行していただければいいかと思う。主管課との間で，意見交換会の中でまた話ができればいい。

5 その他

6 閉会